

「あなたは、キリストです」

マルコによる福音書8章27-30節

森島 牧人 牧師

今日の聖書は、「イエスは、弟子たちとフィリポ・カイザリア地方の方々の村にお出かけになった。」(マルコ8:27)という記述から始まります。マルコ8章を折り返し点として、主イエスのエルサレムを目指す十字架への道は始まるのですが、そのきっかけとなる事がこのフィリポ・カイザリアで起こったのでした。

ヘロデ王、律法学者、ファリサイ派などからの追っ手を逃れて旅を続けていた主イエス一行は、エルサレムから最も遠く離れたフィリポ・カイザリアへとやって来ました。日毎に険しさを増す旅でしたが、主の旅の目的の一つは、神の都エルサレムで実現することになるメシアとしての業の完成のための準備、すなわち弟子たちへの教育にありました。主イエスには、御自身が神からの使者であり、神の言葉そのものであることを弟子たちに啓示する必要があったのです。それは、福音書のどこを見ても優れた者とする描写はなく、むしろ愚鈍な行動で主イエスを悲しませる姿ばかりが見える12人の弟子に、御自身の十字架の出来事を証するという大仕事を託さなければならないことにありました。

主イエスが道を折り返してエルサレムへ向かわれることとなるフィリポ・カイザリア、それはヨルダン川源流の近くで、ローマ皇帝アウグストゥスから与えられたヘロデ大王の最北端の領土でした。そこには、それを記念してのアウグストゥスを祀る大神殿があり、さらにギリシャのパン神も祀られていて、まさに、異教の地以外の何ものでもありませんでした。そのような地で、村々へお出かけになる途上、主イエスは弟子たちに「人々は、わたしのことを何者だと言っているか」とお尋ねになったのです。「洗礼者ヨハネだ」、「エリヤだ」、「預言者の一人だ」と言っていると弟子たちが答えると、今度は弟子たちに「それでは、あなたがたはわたしを何者だと言うのか。」と問われたのです。それに対してペテロが即座に答えたのが、「あなたは、メシアです。」というものでした。聖書には「するとイエスは、御自分のことをだれにも話さないようにと弟子たちを戒められた。」とあります(同8:27-30)。この弟子たちの「自発的な信仰告白」こそ、主イエスがずっと待っておられたものでした。マルコ福音書の真ん中であって、前半のクライマックスとなっているこの場面は、福音書の中の最も重要な箇所の一つです。「わたしを何者だと言うのか」との問いを、主イエスは異教の地の旅の途上で、それに答える「あなたは、キリストです。」とのペテロの信仰告白もまた、異教の地の旅の途上でなされたのでした。

聖なる場所ではなく、異教の地の、しかも旅の途上でなされた弟子たちへの「わたしは何者か」との主イエスの問い。このことを通して私たちが学ぶことは、主イエスは教会などの聖なる場所のみではなく、世俗的な生活の具体的な場所でこそ、「わたしを何者だと言うのか」と私たちに問われているということです。そして重要なことは、主イエスが私たちの告白を求めておられる、真剣に聞こうとされているということでもあります。日常生活の中で「わたしが共にいること、祝福の中いることを信じているか」と問われる時、どのような状況下であっても、ペトロのように即座に、「主よ、信じています。」と答える者でありたいと願うものです。(説教要約 羽入田悦子)